

多様な人を包摂するまちなかの可能性
-こどもの居場所から考える-

後藤智香子

(東京都市大学)

2026.7.3 中心市街地活性化オンラインセミナー

index

- 自己紹介
- (確認) 中心市街地活性化施策における「包摂性・多様性」の位置付け
- 中心市街地における「包摂性・多様性」の確保の意味
 - 多様なこどもの居場所の必要性
 - 中心市街地の可能性
- 参考事例
- おわりに

(確認)

中心市街地活性化促進プログラム（令和8年3月改定）

中心市街地活性化本部決定
（令和2年3月）

プログラムの基本的な考え方

中心市街地活性化の必要性

✓ 中心市街地は「まちの顔」として地域の活性化のために極めて重要なエリア。そのストックを活かして期待される役割を果たすことが必要。

中心市街地活性化促進プログラムの狙い

- ✓ 現下の情勢に即した「重点的な取組」を示し、国の支援を積極的に行っていくことで中心市街地の活性化を促進する
- ✓ アドバイスの強化等により、より多くの自治体における現行制度の効果的な活用を促進することで、中心市街地の更なる活性化を図る

重点的な取組：中活プログラムに基づく重点的な取組について、積極的に支援する（中心市街地の活性化を図るための基本的な方針（閣議決定））

1. 目指すべき地域の個性をいかした都市像を踏まえた認定基本計画をつくり、効果的に取組みを進める

- 地域の個性をいかした都市像を踏まえた計画づくり
- 地域の多様な主体や庁内の様々な部局との連携
- 目標の効果的な設定と運用、目標達成に資する事業追加

2. リノベーション等まちのストックを活かす

〔 空き店舗・空きビルや空き家、遊休公的不動産など、まちのストックの活用 〕

- 専門家の経営相談等に基づく空き店舗の改修支援
- 旧校舎を活用した文化創造拠点の整備
- 地域金融機関等と連携したサブリースを活用した取組支援



3. 起業・創業によるチャレンジの場とイノベーション創出環境を形成する

〔 起業・創業の促進、学生や若い世代のまちなかへの呼び込み 〕

- 産業振興拠点の整備と人材育成事業の実施
- 駅前施設内サテライトキャンパス整備や学生イベント実施
- 空き店舗を活用した若手起業家の交流拠点の整備



4. 多様な人を包摂する生活・暮らしの場として充実させる

〔 多様な人が安心して暮らせるまちづくりや人の交流の活性化、地域資源の活用 〕

- 遊びと学びを通じて子どもが成長できる環境づくり
- ワーケーションの活用による関係人口の創出・拡大
- 町家等歴史的な建物の外観改修による景観整備



5. 中心市街地と郊外との連携などの地域経済の好循環・相乗効果でまちの付加価値を高める

〔 民間企業等との連携強化や地域経営の発想によるまちづくり、まちづくりを担う人材の育成・確保 〕

- 地域通貨による地域内外からのまちなか消費の促進
- 客船誘致及び歓迎による地域経済の活性化
- タウンマネージャーと連携した市民の公共空間活用支援



6. 中心市街地活性化制度の効果的な活用を促進する

〔 地域における多様な市街地の実情に応じた支援を行い、より積極的に活用される仕組みとする 〕

- 自治体ニーズへの対応
- ハンズオン支援の強化
- 成功事例等の横展開（中心市街地活性化プラットフォームの活用等）

プログラムの業績評価指標

指標：計画期間を終了した認定中心市街地活性化基本計画の目標指標の改善率 目標値：70%（令和12年度）

(確認) 中心市街地活性化促進プログラム > 中心市街地の役割

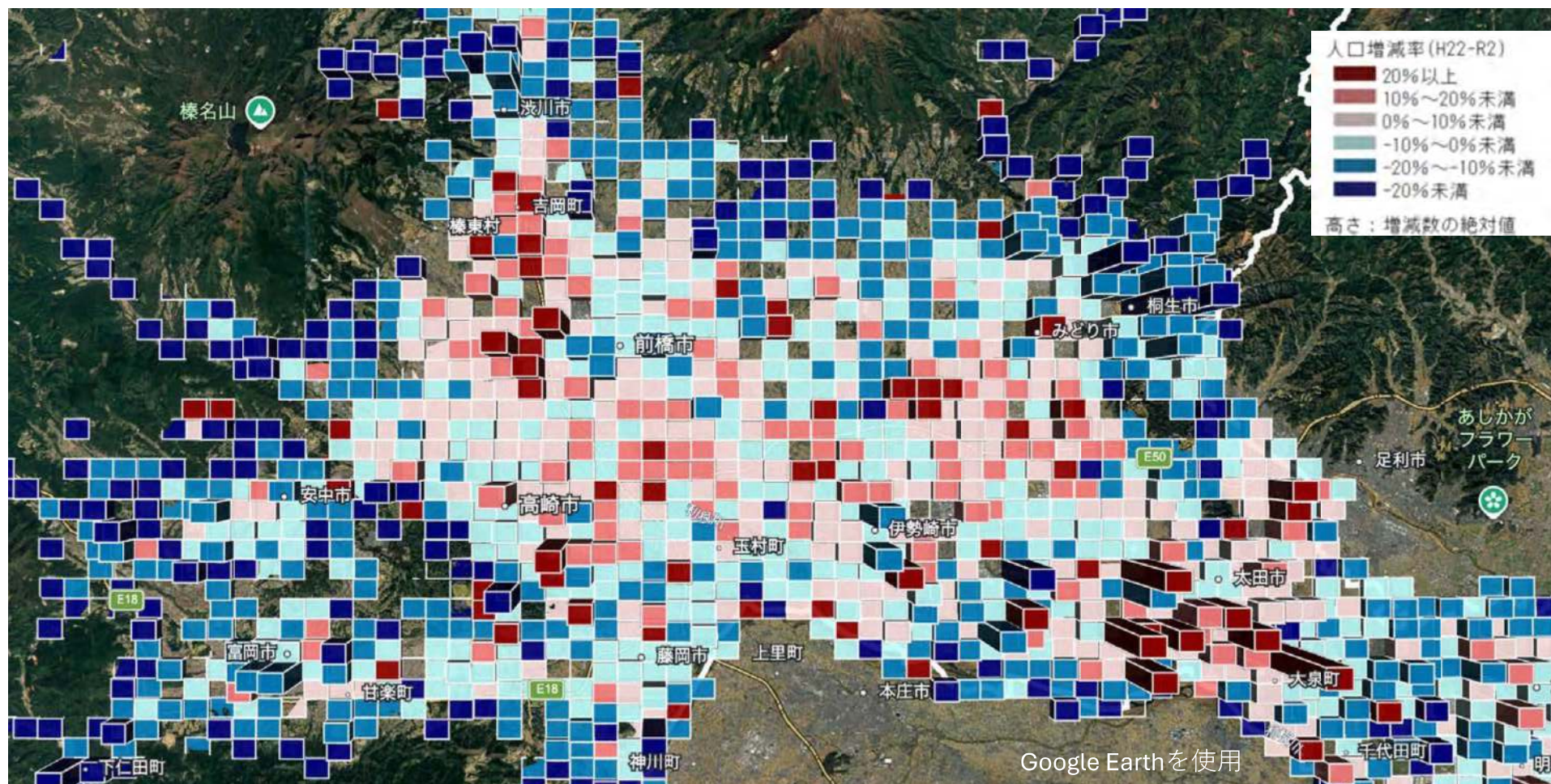
「第一に、人口減少時代に対応して、小売業の生き残りを図るといった視点にとどまらず、若者、特に女性の定着・移住の施策の受け皿にもなることで、

若者・子育て世代・高齢者等の多世代が、安心して歩いて暮らすことができる環境を提供するという役割を認識する必要がある。

地域住民等が愛着を持ち、それぞれの「居場所」のある「まちなか」をつくり上げる先に地方都市のあるべき姿が実現するという「包摂性・多様性」の観点が求められる。」

「まち」 中心部での人口減少の進行と郊外部の人口増加

「総人口が減少するなかで、現在まで、特に、市街化区域や用途地域及び駅周辺など公共交通の利便性が高く本来「まちのまとまり」を形成すべき地域では、人口減少傾向がより大きい一方で、本来「まちのまとまり」を形成すべき以外の地域で人口増加傾向がみられる。」（群馬県HP）



人口増減率及び増減数の分布（平成22年ー令和2年）

（参考）群馬県HP <https://www.pref.gunma.jp/page/11467.html#zougenritsu-zougen>

10,000m

- 地方：郊外部への人口増加
 - 中心市街地は相対的に地価が高いため、若い世帯は郊外に家を求める
 - 郊外に住んで、郊外（+EC）で消費し、娯楽も郊外にあれば、車移動のため、中心市街地には足は向かない



- 子どももまちなかに行く機会が少ない



- 中心市街地（「まち」）に対して愛着がわきにくい
- 長期的に「まち」への持続性に影響を及ぼす



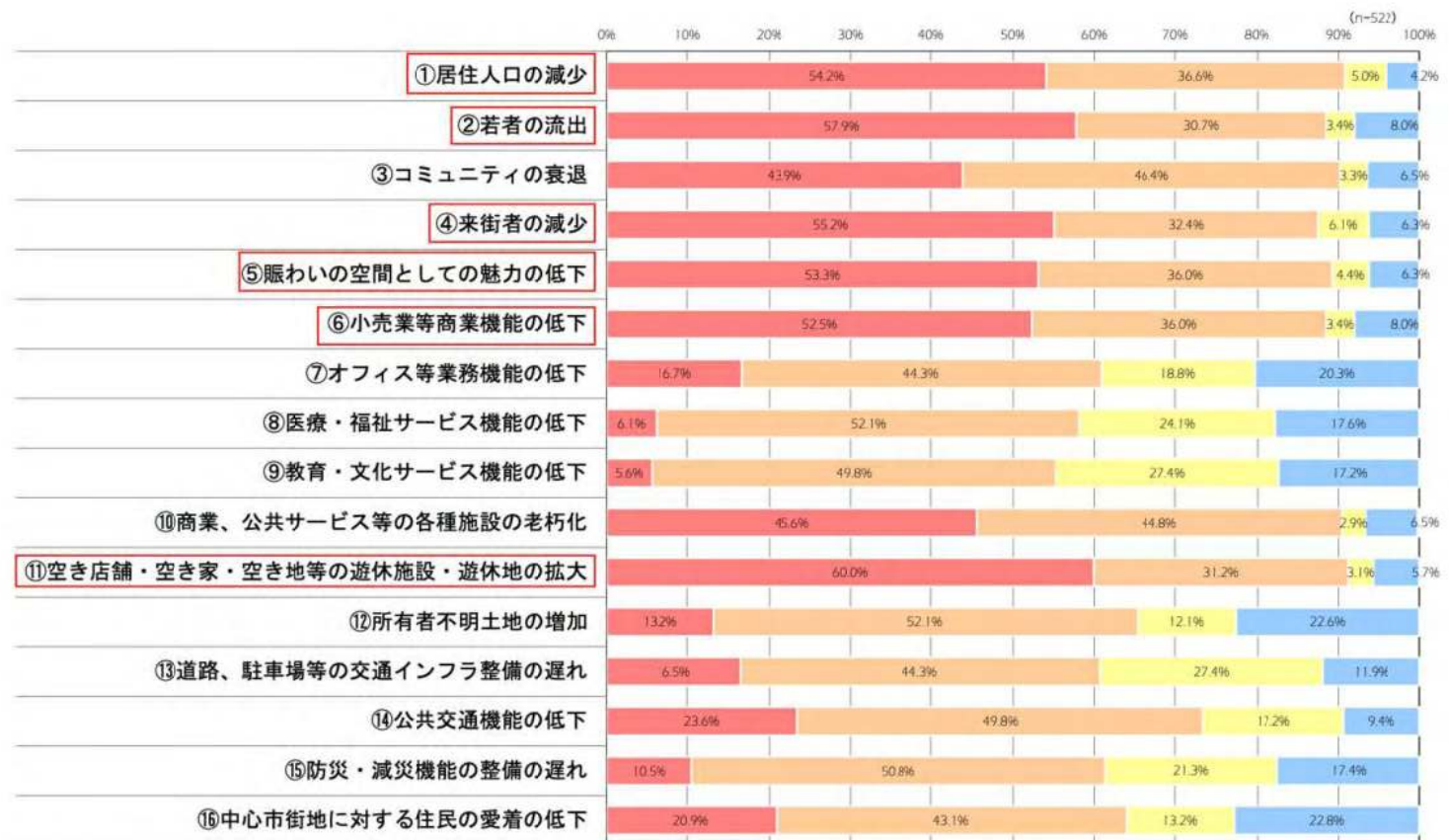
中心市街地の役割・価値とは？

中心市街地における「包摂性・多様性」の確保の意味

自治体 アンケート

中心市街地における現在の課題

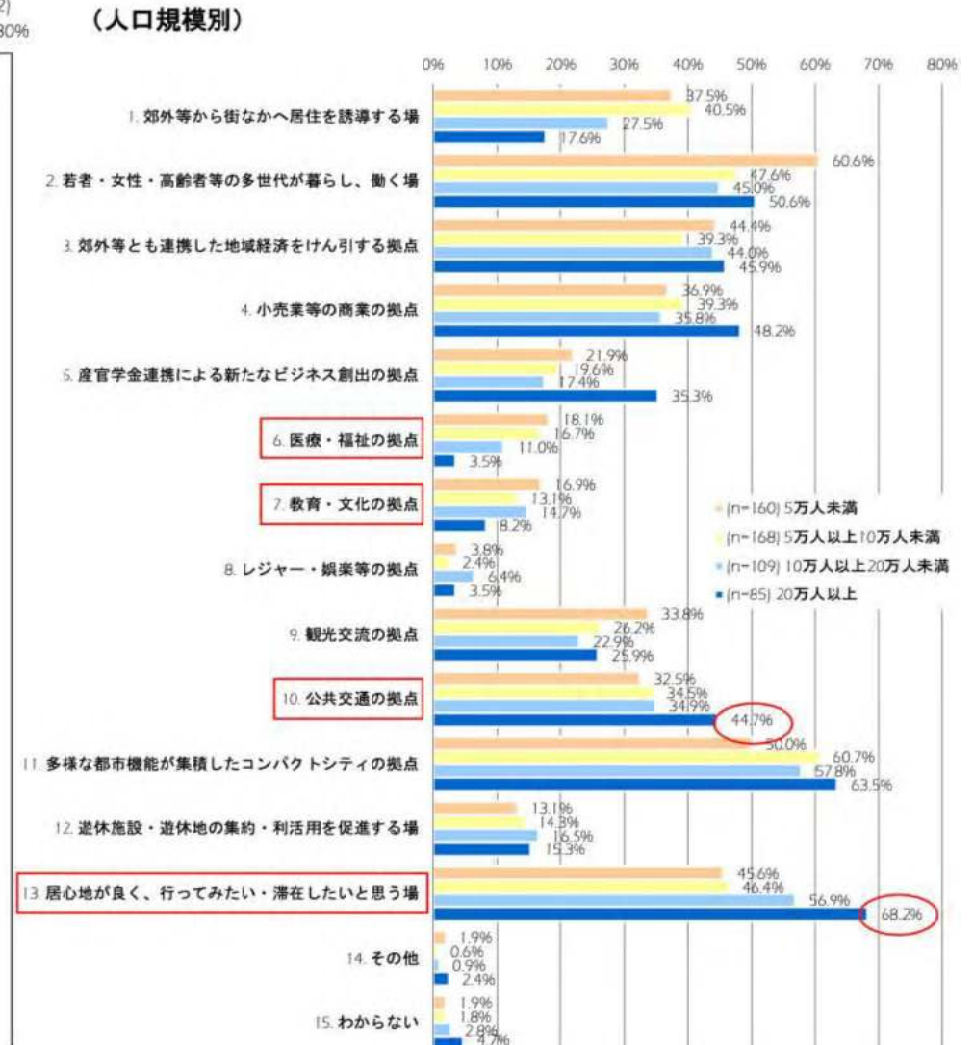
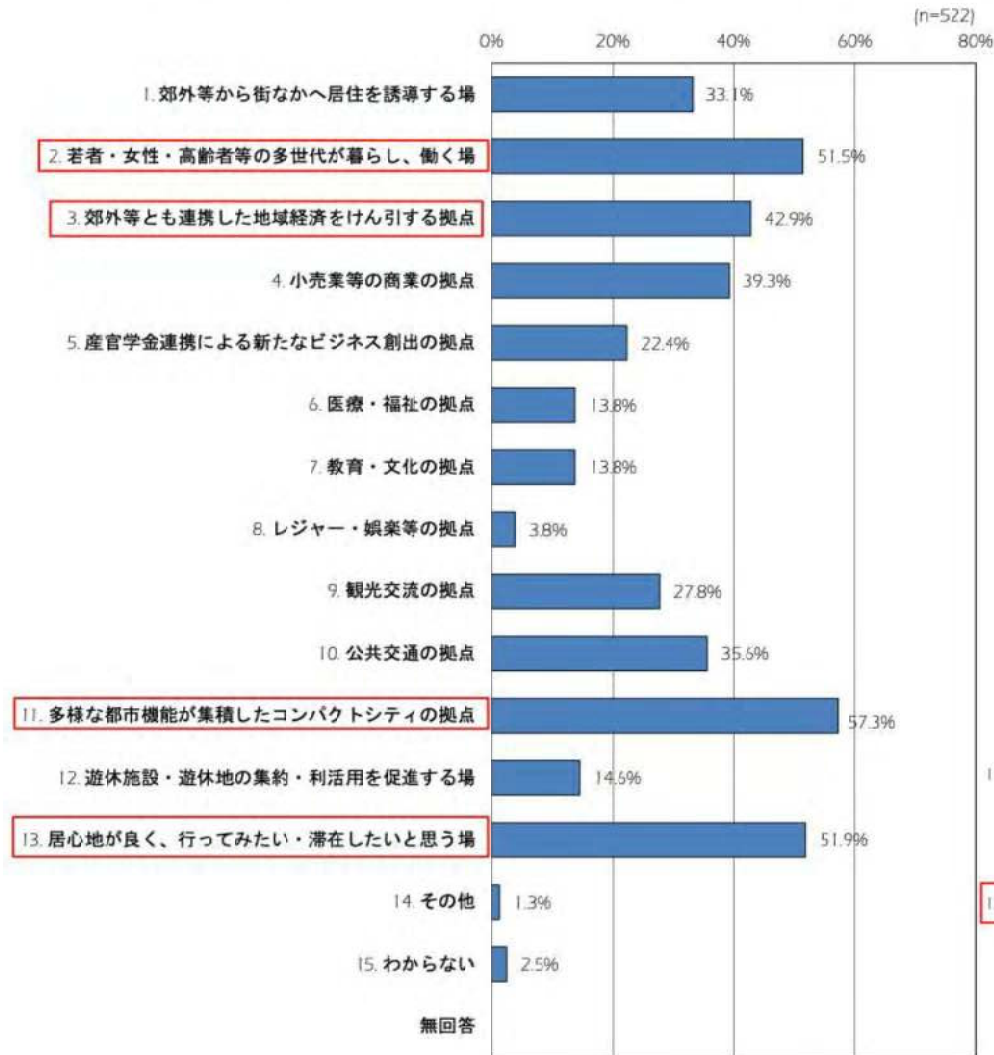
○ 中心市街地の現在の課題については、「空き店舗・空き家・空き地等の遊休施設・遊休地の拡大」が最も高く、「居住人口の減少」、「若者の流出」、「来街者の減少」、「賑わいの空間としての魅力の低下」、「小売商業等商業機能の低下」が5割を超える。



- 1. 現在大きな課題となっている
- 2. 現在は大きな課題となっていないが、将来大きな課題となることが予想される
- 3. 現在も将来も大きな課題とは思わない
- 4. わからない
- 無回答

今後の中心市街地に期待される役割

- 今後の中心市街地に期待される役割等については、「若者・女性・高齢者等の多世代が暮らし、働く場」、「多様な都市機能が集積したコンパクトシティの拠点」、「居心地が良く、行ってみたい・滞在したいと思う場」が5割を超え、「郊外等とも連携した地域経済をけん引する拠点」が続く。
- 人口規模別では、「公共交通の拠点」、「居心地が良く、行ってみたい・滞在したいと思う場」は、大きい自治体ほど高い傾向にある。一方で、「医療・福祉の拠点」、「教育・文化の拠点」は、全体の割合は高くないものの、小さい自治体ほど高い傾向にある。



中心市街地における「包摂性・多様性」の確保の意味

「子ども・若者・女性・高齢者等の多様な人が、安全・安心で、気軽に向かうことのできる居心地の良いまちなか」



子ども・若者・女性・高齢者等の多様な人にとって、
居場所があること

居場所とは？

気軽に訪れることができ、
安心感や自分の役割を感じられる場所

皆さんのまちの中心市街地には居場所がありますか？
増えていますか？

『こどもの居場所づくりに関する指針』（2023.12） 閣議決定

- 「人間は社会的な動物であり、肯定的・開放的な関係の中に自分の居場所を持つことは、自己肯定感や自己有用感に関わるなど、全ての人にとって生きる上で不可欠な要素である。当然、こども・若者が生きていく上でも不可欠と言えるものであり、居場所がないことは、人とのつながりが失われ、孤独・孤立の問題と深く関係する重大な問題である。」
- 「かつてはこどもの居場所となり得た空き地や路地裏など、こどもが自由に遊び、過ごせる場は減少し、駄菓子屋などの結果としてこどもの居場所となっていた場も減少している。ボール遊びなどが禁止されている公園も多い。」
- 「重要なことは、様々なニーズや特性を持つこども・若者が、身近な地域において、各々のライフステージに応じた居場所を切れ目なく持つことができることである。」

こどもの居場所から見る中心市街地

- 歴史・文化などを背景に、さまざまな空間が集積している
 - 利用可能な空き家空き店舗も多い
 - （ただし利用にはハードルも？）
- こどもの居場所には空間だけあってもダメで、そこに関わる暖かい「人の環境」が不可欠
 - まちなかにはそうした多様な「人の環境」があるのでは！？（期待）
 - 参考）プレーパーク：プレーリーダー



提言

我が国の子どもの成育環境の改善にむけて
—成育空間の課題と提言 2020—



令和2年（2020年）9月25日

日本学術会議

心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会
・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同

子どもの成育環境分科会

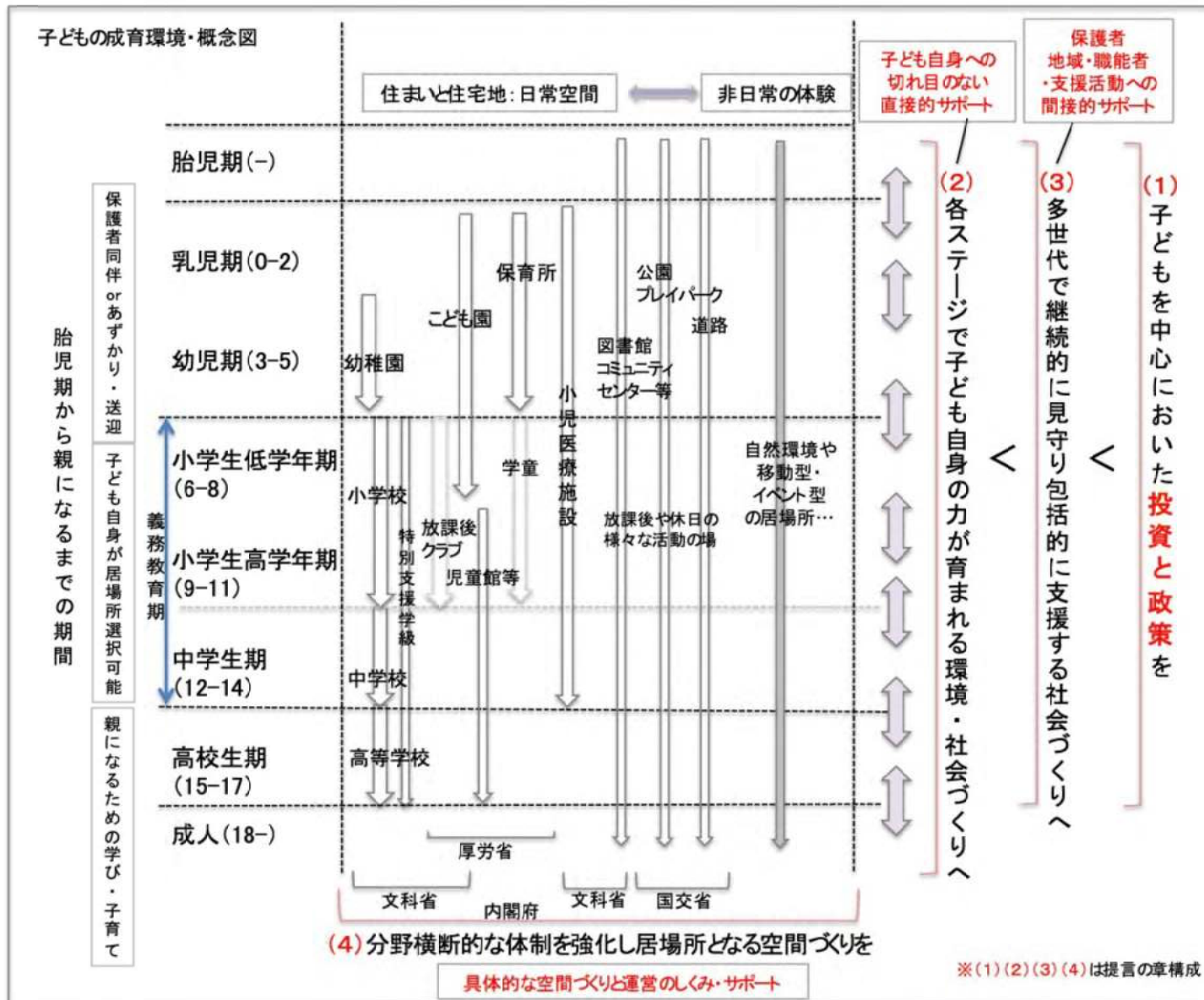
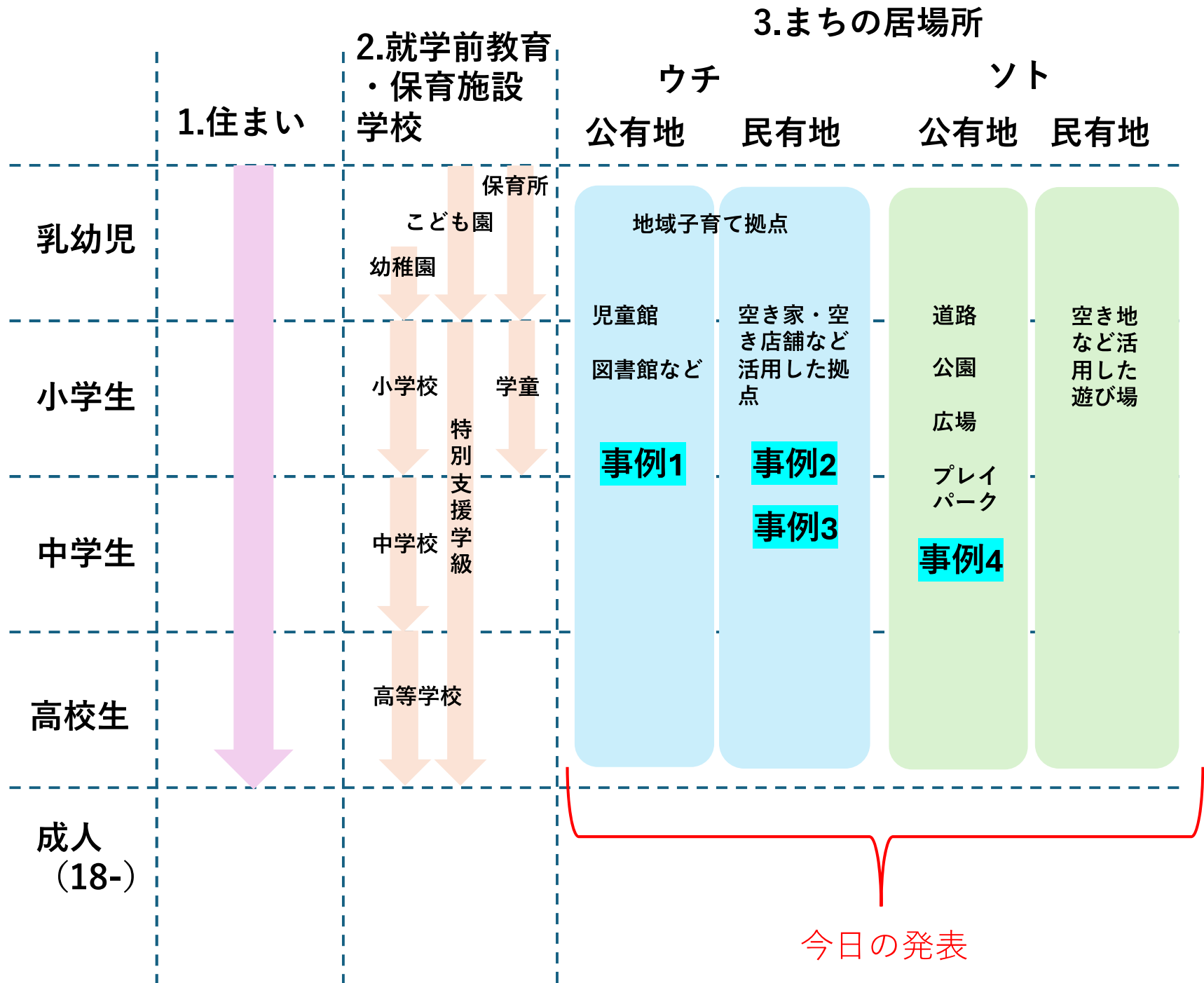


図2 子どもの成育環境を捉える視点を通した概念図

(出典) 子どもの成育環境分科会で作成





こどもの居場所
参考事例

公有地×ウチ（ソト）

茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」



公有地×ウチ（ソト）事例1 市川市ぴあパークCOCO

「集まる空間の周りに個別的個人的活動の空間が設けられ、利用者が選択が可能であり、自分の居場所が見つけやすい形式」

（建築ジャーナル3月号）



平日：世代×時間	乳児	幼児	小学生	中高生	大人	時間ごと合計
11:00	3	12	3	0	19	37
12:00	4	16	2	0	31	53
13:00	3	8	14	8	28	61
14:00	1	2	30	28	23	84
15:00	2	6	77	40	21	146
16:00	0	8	51	54	17	130
17:00	1	4	34	53	14	106
18:00	1	4	13	23	8	49
19:00	0	4	5	16	6	31
世代合計	15	64	229	222	167	

2025年11月、平日
2日間合計

平日：空間単位×時間	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	合計
1：調理室・入口付近の机スペース	0	3	4	5	9	12	12	4	0	49
2：まんがのへや	0	2	2	5	6	5	5	3	2	30
3：みんなのひろば	12	5	14	2	14	19	12	5	3	86
4：カフェスペース	15	30	18	17	30	15	13	4	1	143
5：ほんのへや	0	1	2	3	6	10	5	1	0	28
6：かくれが	0	0	0	8	0	5	0	0	0	13
7：ぴあばどおり	0	3	5	2	8	4	11	2	1	36
8：作業スペース	2	0	4	11	37	31	31	21	19	156
9：ものづくりひろば	6	5	5	5	5	9	2	0	0	37
10：ぴあほーる（体育館）	2	2	8	3	24	17	14	9	5	84
11：みはらしねっと	0	0	0	0	8	0	0	0	0	8
時間ごとの人数	37	51	62	61	147	127	105	49	31	

民有地×ウチ 事例2：こまちカフェ（横浜市戸塚区）

運営：認定NPO法人こまちぷらす

事業概要

居場所の運営

- こまちカフェ
#子どもの見守り
#遊び場
#お菓子工房
#手づくり雑貨マルシェhaco+
#イベント
- こよりどうカフェ
#歴史400年のお寺
#小さなヨリドコロ
#お惣菜

居場所のノウハウ 展開・オープンソース化

- 居場所づくりの展開 3枚の葉っぱ
#対話と出番
#居場所が増える
#対話のツール

情報発信

- 戸塚宿ほのぼの商和会 事務局
#子育て×まち
#商店×まち
#子育てでウェルカムな風土
- とことこ/地域こそだてカレンダー
#当事者目線
#家から出られなくても
#情報提供

特定トピックについての対話の場

- でこぼこの会
#障害
- ケアえん
#ダブルケア
- ウェルカムベビープロジェクト
#出産祝い
#まちの人の参画
#協働のプラットフォーム
- ほっと一息
#不登校
#ひきこもり

民有地×ウチ 事例3：二つ台みーとみーと（横浜市保土ヶ谷区）

学習塾×交流滞在空間×シェアキッチンで構成される交流拠点



出典：まち普請申請書

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri->

[kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/teian_seibi_list/Teian_26to_.html#R7](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/teian_seibi_list/Teian_26to_.html#R7)

参考) ヨコハマ市民まち普請事業

「市民の皆さんの、地域の問題を解決したい、地域の魅力をもっと高めたい、という思いを実現するための施設整備に対して支援・助成を行う事業」

- 1.市職員が支援
- 2.まちづくりコーディネーターの派遣
- 3.活動助成金（最大30万円）の交付
- 4.整備助成金（50～500万円）の交付



- ※施設整備を通じたまちづくり
- ※「子育て」など限定していないこともポイント
- ※都市整備局地域まちづくり部所管
- ※横浜市前中期計画でもピックアップ

対象となる子どもの世代

- 世代を明記していない提案が半数以上
- 「小学生」が30%以上
- 「中学生」「高校生」はいずれも10%未満

対象の子ども世代（複数あり）

明記せず	親子	乳幼児	小学生	中学生	高校生
36	9	11	20	5	4
56%	14%	17%	31%	8%	6%

整備に関わった(想定含む)子どもの年代

- 「小学生」が40%で最多
- 「中学生」、「高校生」は10%程度

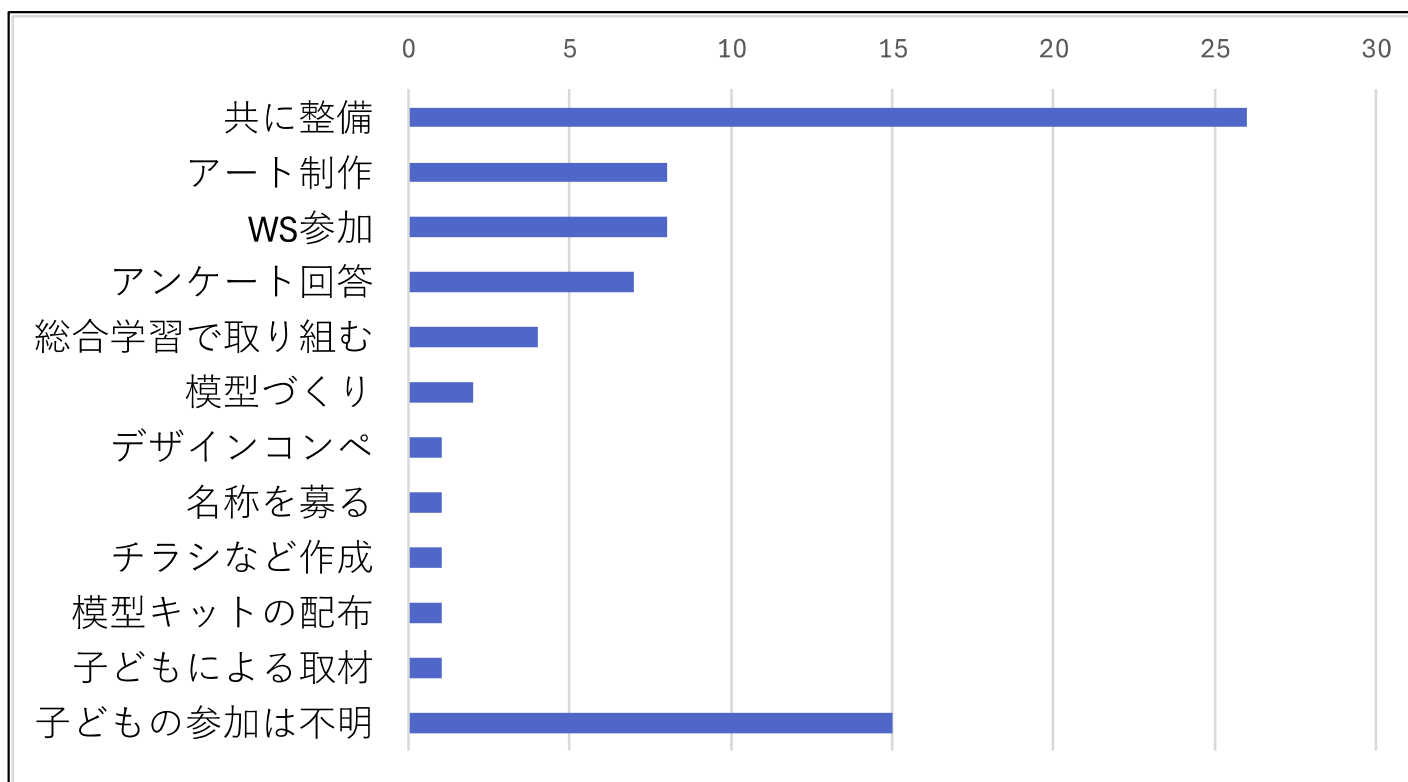
整備に関わった/関わることを想定された「子ども」

	「子ども」の世代を明記せず	親子	乳幼児	小学生	中学生	高校生	子どもの関わりは読み取れない
件	20	4	1	27	10	5	13
割合	31%	6%	2%	42%	16%	8%	20%

子どもの関わり方

- 整備(DIY)に参加することが中心
- 計画段階での関わりは少ない

関わり方 (複数あり)



公有地×ソト

南池袋公園

#PARK-PFI #ウォーカーブル #まちなかりビング



公有地×ソト 事例4 bajicoプロジェクト

●馬事公苑前けやき広場

馬事公苑と世田谷通りをつなぐ区道
歩行者の利用を優先させた「広場」として
活用されてきた公共空間
駅から遠く、主に地域住民が利用



図：馬事公苑前けやき広場の位置 (Google Map)

1935年 ● 玉川全円耕地整理事業により造成

1940年 ● 東京オリンピック計画道幅35メートルに

1984年 ● 「せたがや百景」選定

1985年 ● 歩行者の利用優先の「広場」に再整備

2017年 ● 東京2020大会「馬事公苑界わいサイン事業」の一環で蹄鉄型ベンチ設置



図：けやき広場に設置された蹄鉄型ベンチ (主典：参考文献8)



Bajico当日 (2025, 7)

STEP

01

ハード面整備

世田谷区は、東京2020大会を契機にハード面・ソフト面の街並み整備を行っていた。

STEP

02

社会実験

当初はヒヤリングや人工芝の設置、誰でも読める本の設置など、実験的な取り組みを通じて広場の活用が模索。

STEP

03

amigoとの出会い

都市デザインフォーラムで地元を拠点に活動する子育て支援グループamigoに出会い、中心的関与を依頼。

STEP

04

bajico設立

住民主体・官民連携で継続的にイベントを実施。令和2年度には世田谷区提案型協働事業に採択される。

NPO法人子育て支援グループamigo



世田谷区松原を拠点
子育て支援や地域コミュニティの再生

馬事公苑前けやき広場
近くで「ULALA」運営



●bajicoの活動理念

「人と人とのつながり」

「心の豊かさを再確認」



世田谷 bajico シャルソン

2025.10.26 (日)
11:00-16:00

会場: けやき広場
(世田谷区上用2-3先)
雨天中止
※中止等の場合は、bajicoHPでお知らせします。

シャルソンイベント

「シャルソンとは？」
シャルソンはソーシャルマラソンの
略です。ゴールの場所と時間以外は
参加者の自由。走ったり散歩したり。
景色を楽しみ寄り道しながらゴール！
競うのは「記録」ではなく「記憶」です！

ゴール時間: 14:00
ゴール場所: けやき広場
乾杯&記念撮影: 14:15

詳細と参加エントリーはこちら

みんなが楽しめるマルシェ

ゴール地点であるけやき広場で、
食品や雑貨の店舗、親子で楽しめるワークショップや楽器演奏など
たくさんのお店が出店予定。
bajicoのHPやInstagramで情報をゲットしよう！

bajicoの活動を通じた成果

地域活動の担い手の創出

人とのつながりの形成・地域への愛着

公共空間であるけやき広場の利用イメージの変化

行政：住民の主体的関与、職員の協働姿勢の変化

住民：顔見知りの増加、安心感、多様性への気づき

参加者：高い満足度・継続参加意欲、温かい雰囲気の評価

課題

行政と地域の役割分担、資金面の確保、行政内部の理解

多世代の参加や新規出店者への周知、行政による情報発信の強化

地域資源を生かしつつ、多世代が関われる場として展開

まとめ

- ・ 中心市街地の役割（期待）

→気軽に訪れることができ、ゆっくりできる、安心感や自分の役割を感じられる場所（＝居場所）が必要。

- ・ 子どもの居場所

- ・ 公共施設の充実は大事だが、全て行政がやるのは無理。
- ・ 施設の中に囲い込むのではなく、民間と連携して子どもが選択可能な**多様な居場所**があること・・・誰にとっても過ごしやすいまち
- ・ 空間だけあってもダメ。そこに関わる温かい「人の環境」、マネジメントシステムが重要。アクセスも重要。
- ・ **中心市街地には、活用可能かつ魅力的な空間、人の環境があるのでは。**（地域資源がたくさんある！）
 - ・ 空間の活用：行政支援は重要。
 - ・ 子どもが主体的に関わる仕組み、機会重要（中高生の居場所が少ない？）。**子ども関係の団体や部局と連携が重要。**